

タンス株券はありませんか？

株券は、平成21年1月5日以降、上場会社の株式情報の全てを電子データにして管理されています。ですから、自宅や会社に保管されている「タンス株」や「紙の株券」は全て無効となってしまいます。

株式電子化の意味

株券を電子化することによって、株式投資家、株式を発行する企業双方に大きなメリットがあります。

<投資家サイドメリット>

- ・株券の紛失や盗難がなくなる
- ・株券授受、名義書き換えの簡便化
- ・配当金取得の簡便化

<企業サイドメリット>

- ・株券発行時の印刷代、郵送代の軽減
- ・事務コストの軽減



皆様が相続や譲渡などで取得した株は、名義書き換えの手続きを行わず、そのままにしておくと、配当金の受取や株主総会の議決権の行使など、株主の権利を失ってしまう恐れがあります。

株式電子化の手続

<すでに証券保管振替機構に預託済の場合>

手続きの必要はなく、自動的に移行されます。

証券会社の口座に入っている株式には、一般的には、証券保管振替機構に預託されていますが、保護預かりとなっている場合もありますので、証券会社に確認を取りましょう。

<タンス株の場合>

1. 本人名義の株券の場合
株式の発行企業が開設する「特別口座」に記録が移されるので、株主の権利は保全されます。
2. 本人名義でない株券の場合
本人名義でない為、株式は無効となり紙くずになってしまいます。その一方、株式名義記載のデータ、つまり本人ではない方のデータが記録されている為、タンス株の所有者は株主の権利を失ってしまいます。

本人名義の書換を忘れた方は、電子化から1年以内であれば、株券と譲渡証明書を株主名簿管理人（信託銀行等）に提出すれば名義の書換が可能です。この機会に書換されていない株券が残っていないか、タンスの中を整理してみてもいいかもしれません。

幸せが舞い込むステキな風水！

おそうじは効果的な開運法

前回はお掃除の具体例として「玄関」「エントランス」を取り上げました。では、何故お掃除が開運の方法なのかを様々な具体例を上げる前に改めてお話しします。

命理学（中国の運命学）では“運とは環境である”と言います。

- 安心・安全であること
- 快適であること
- 家や町が栄えているかどうか

でも上記のような環境の三条件に恵まれた「風水の良い土地を求めて購入しよう！引っ越そう！」となると一大事です。地形も方位も良い吉相の地をじっくりと探す為には、たくさんの時間と労力とお金がかかるからです。

そこで引越しなどしないで今すぐできる風水開運法と言えば快適な住環境をつくることです。

空気や水がきれいで日当たりの良い家に住むのは、誰にとっても快適です。

実は、お掃除はとても効果的な開運法なのです。

中国命理学研究家
林 秀静
<http://lin-sunlight.com/>



エコな話題 「ナルホット」

ヒモを引っ張るだけで100度の熱蒸気が出て、ホカホカのお弁当に変わる。駅弁やレストランなどに採用されている不思議なお弁当があります。それが「ナルホット」です。

どのような仕組みになっているのでしょうか？ナルホットは、生石灰に水を加え、その化学反応で熱蒸気を発生させます。それを特殊構造の専用容器の中で滞留、伝導させて中の食品を加熱・加温するシステムになっています。

ヒモを抜くと瞬時に反応が始まります。約30分位暖かさが持続するので、食事するには、ちょうど良い時間ですね。

ヒーローマンションは、チームマイナス6%に参加しています。



このナルホットの技術を活用して出来た非常用保存食も販売されています。

ナルホットで食べ物を温めた後の加熱材は、自然に還元することが出来ます。発熱材は生石灰ですので、使用後は消石灰となります。消石灰は、土壌を改良する肥料などに再利用できる、環境に優しいエネルギー源です。



ハロー！環境技術 
エコ製品で止めよう温暖化 チーム・マイナス6%



食材コンシェルジュ☆☆☆

女房を質に入れても初鯉？！
鯉（カツオ）

黒潮からの贈り物、鯉。南の海からやって来て、新緑の季節に関東の沖合いで採れる、さわやかな味の初鯉。紅葉の頃に、三陸沖を南下してくるのが旨みたっぷりの戻り鯉。

1年で2種類の楽しみを提供してくれる美味しい魚です。

鯉は、サバ科の魚で、高速で海中を遊泳し、鰯などの小魚を食べます。

鯉と言えば、まずはタタキでしょう。大型の鯉で鮮度の高いものはまだATPの分解が十分に行われていないので、旨みが足りません。そこで叩いてイノシン酸を生成させるのです。

また表面を焼くと皮の近くにある脂質を飛ばして、旨みが均一化されます。鯉のタタキの場合焼いた後で水にさらさない方が美味しく食べられます。

「女房を質に入れても初鯉」と、江戸での初鯉の人気は有名ですが、実際にはどのぐらいの値段だったのでしょうか。

実際に初鯉に驚くような高値がついたのは、元禄から天明ぐらい、18世紀を中心とする150年ぐらいの間でした。

文化9年（1812年）の記録を見ると、初鯉の入荷は旧暦の3月25日。わずか17本の入荷でした。このうち6本は將軍家が買い上げています。今の貨幣価値に換算して、1両=3万円として、鯉一本が9万円という高値でした。

当時は庶民の口に中々入らない高級魚だったのでですね。

ATPとは
アデノシン三リン酸。継続して早く泳ぐ為に蓄えられています。

